

## RepRisk 「世界で最も物議を醸したプロジェクト 2016」 発表。エネルギー・資源系が多数

2017年04月18日

ESG リスクに関する情報提供大手の RepRisk は 3 月 29 日、2016 年度版「世界で最も物議を醸したプロジェクト (Most Controversial Projects) 報告書」を発表した。RepRisk は、同様の報告書として「世界で最も物議を醸した企業 (Most Controversial Companies) 報告書」も毎年発行しているが、今回発行のものは「プロジェクト」についてまとめたもので、今年が 4 回目。



【参考】[RepRisk 「世界で最も物議を醸した企業 2016 年」 発表。賄賂やマネーロンダリング関与が多数](#)

同報告書は、上場・非上場含む世界の主要企業 84,000 社とプロジェクト 21,000 件の情報を網羅した同社の「ESG リスクプラットフォーム」に基づいて、リスク値を計測している。このプラットフォームには、メディア、オンラインメディア、ソーシャルメディア、第三者団体等から発行された報告書、ステークホルダー、NGO、政府機関、規制機関、シンクタンク、ニュースレター等の公開情報を 15 言語で毎日収集している。

リスクはゼロ（リスクが最も低い）から 100（リスクが最も高い）で得点付けされ、特に 75 から 100 の値はリスクが非常に高い。

ランキング	プロジェクト名	リスク値	国	業界
1	豊城発電所フェーズ 3	88	中国	電力
2	紅坳廃棄場	76	中国	サポートサービス
3	Dakota Access Pipeline	72	米国	石油ガス
4	Aliso Canyon Natural Gas Storage Facility	68	米国	石油ガス
5	Sports Direct Shirebrook Warehouse	66	英国	小売
6	Petroquimica Mexicana de Vinilo Plant	63	メキシコ	石油ガス
7	Agua Zarca Hydroelectric Project	62	ホンジュラス	電力
8	Tongi Packaging Plant	60	バングラデシュ	消費財
9	Angra dos Reis Nuclear Complex	59	ブラジル	電力
9	金山溝炭鉱	59	中国	採掘

今回リストアップされたプロジェクト 10 件については、建設現場での大規模死亡事故や、廃棄物の杜撰な管理による巨大な土砂崩れ、製造現場での従業員人権侵害などが取り沙汰されている。1 位の豊城発電所フェーズ 3 では、発電所建設中の高層足場が崩れ 74 人が死亡。2 位の紅坳廃棄場では、積み上げた土砂が崩れ工業団地を飲み込み 91 人が行方不明。日本でも話題となった米国のダコタ・アクセス・パイプラインも 3 位に入った。

【報告書】 [Most Controversial Projects of 2016](#)

株式会社ニューラル サステナビリティ研究所 [\[原文はこちら\]](#)

2017/04/13  
Sustainable Japan